

平成29年度第2回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時

平成29年11月16日（木）13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「平成29年産夏秋野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、11月7日開催の消費分科会で出された秋冬野菜の需要見通し等を踏まえて意見交換を行い、「平成29年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」（資料4）について藤島座長が取りまとめ、機構HPで公表することについて各委員の了承を得た。

平成29年産秋冬野菜の需給・価格の見通し等に関する委員からの主な意見の概要は以下のとおり。

（1）冬キャベツ（11～3月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積：千葉は前年比101%、神奈川は100%、愛知は99%。
愛知は年内採りと4月採りの比率が上昇傾向。厳寒期は微減。
- ・ 生育状況：生育は順調で豊作基調となっていたが、10月の台風の影響で圃場の冠水や沿岸部では塩害が発生。被害の大きい地域もある。
- ・ 出荷開始：千葉で10月上旬、愛知で10月下旬、神奈川で11月上旬。
- ・ 出荷量：年内は平年並み、1月及び2月は塩害等の影響により平年を下回る見込み。3月は播き直しの関係で平年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 炒め物等の加熱調理やサラダ等の安定した需要に加え、簡便ニーズを受けたカットキャベツの需要も家計消費、業務用ともに堅調と考えられることから、需要の増加を見込む。
なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が年明け以降、顕在化することが懸念され、その場合には、価格上昇による買い控えも想定される。
- ・ 茨城の加工業務用野菜については、契約による調達割合が上昇傾向。
- ・ カットキャベツの需要の増加が見込まれるものの、11月及び12月の出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。1月及び2月は、塩害等の影響により出荷は平年を下回る見込みであることから、価格は平年を上回ると見込む。3月は、播き直しの関係で出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。

（2）秋冬だいこん（11～3月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積：千葉は前年比100%、神奈川は96%、徳島は98%。
- ・ 生育状況：降雨により播種作業の遅れ等が一部あったものの、その後の生育は順調で豊作基調であったが、台風の影響で、圃場の冠水や塩害による葉傷みや擦れ傷などの被害が見られたため播き直した圃場もある。
- ・ 出荷開始：千葉で10月上旬、徳島で10月下旬、神奈川で11月上旬。

- ・出荷量：11月から2月は塩害等の影響により平年を下回る見込み、3月は播き直しの影響で平年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- おでんをはじめとする鍋物需要も増加すると考えられることから、需要の増加を見込む。
なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が顕在化して価格が上昇した場合には、買い控えが懸念される。
- ・鍋物需要の増加が見込まれる中で、11月から2月は、塩害等に影響により出荷は平年を下回る見込みであることから、価格は平年を上回ると見込む。ただし、下位等級品の出荷割合が高まった場合には、12月から2月までの価格は平年並みとなる可能性。3月は、播き直しの関係で出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。

(3) たまねぎ（11～3月）

① 供給見通し

- ・作付面積：北海道は前年比104%。
北海道は、前年が定植後の台風および降雪被害で流失・廃耕により減反等したため、前年を上回る作付となっている。
- ・生育状況：7月に断続的な高温があったが概ね順調な生育となった。収量は豊作基調であった前年を下回る見込み。
- ・出荷開始：北海道の中手、晩生で11月上旬から順次出荷開始。
- ・出荷量：11月から3月まで平年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- ・炒め物等の加熱調理用を始め、幅広く使える常備野菜であることを踏まえ、需要は平年並みを見込む。
- ・加工用の剥きたまねぎについては、国内の豊凶に係わらず、一定の需要がある。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、11月から3月まで、出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。

(4) 冬にんじん（11～3月）

① 供給見通し

- ・作付面積：千葉は前年比102%、愛知は95%、長崎は97%。
- ・生育状況：播種作業およびその後の生育は順調。ただし、一部の地域では、10月の曇雨天・日照不足により茎葉が軟弱徒長して肥大がやや鈍かったり、台風の影響で病害が出た地域もあったが、大きな影響はない見込み。
- ・出荷開始：千葉で10月下旬、愛知・長崎で11月上旬。
- ・出荷量：11月から2月まで平年並みの見込みであるが、台風による病害や品質低下等が発生して平年を下回る可能性はある。3月は長雨の影響で播種が遅れた影響から平年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・炒め物等の加熱調理用を始め、幅広く使える常備野菜であることを踏まえ、需要は平年並み

を見込む。なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が顕在化して価格が上昇した場合には、買い控えが懸念される。

- ・加工業務用向けは、関東産の生育遅れ等の関係で歩留まりが悪く、中国産が増加する可能性。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、11月から2月まで、出荷は概ね平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。ただし、下位等級品の出荷割合が高まった場合には12月から2月までの価格は平年並みとなる可能性。3月は、長雨の影響で播種が遅れた影響から出荷は平年を下回る見込みであることから、価格は平年を上回ると見込む。

(5) 秋冬はくさい(10～3月)

① 供給見通し

- ・作付面積：茨城は前年比104%、愛知は92%、兵庫は100%。
愛知は、生産者の高齢化や品目転換等により作付面積は年々減少傾向。
- ・生育状況：生育は順調であったが、10月の長雨・台風の影響で、根張りが不十分であり、外葉・根の傷み等が散見される。
- ・出荷開始：茨城で10月上旬、兵庫で10月中旬、愛知で11月下旬。
- ・出荷量：11月から3月まで平年並みを見込む。ただし、台風による病害や品質低下等が発生した場合には年明け以降、平年を下回る可能性。

② 需要・価格見通し

- ・鍋物需要も増加すると考えられることから、需要の増加を見込む。
なお、10月の長雨・日照不足、台風の影響が年明け以降、顕在化することが懸念される場合には、価格上昇による買い控えも想定される。
 - ・台風21号の影響を受けて、加工業務用の契約割合が上昇。また、一部の業者においては、春はくさいの産地に早めに作付けするようお願いしている動きがある。
- 鍋需要の増加が見込まれる中で、11月から3月まで、出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。ただし、台風による病害や品質低下等が発生して出荷が減少した場合には、12月以降、平年を上回る可能性。

(6) 冬レタス(11～3月)

① 供給見通し

- ・作付面積：茨城は前年比100%、兵庫は100%、香川は101%。
- ・生育状況：茨城において長雨により定植が遅れたり、定植後は台風の影響で、圃場の冠水や強風による葉傷み等の被害が散見される。一方、兵庫及び香川の生育は概ね順調。
- ・出荷開始：茨城で10月上旬、兵庫・香川で10月中旬。
- ・出荷量：年内は、茨城産が主産地であり台風による病害や品質低下等が考えられることから平年を下回る見込みであり、1月以降は平年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- ・サラダ及びカット野菜の需要が安定していると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- ・12月の需要期に減少することが見込まれることから、一部に米国産、台湾産を手配している業者もある。

- ・需要は平年並みが見込まれる中で、11月及び12月は、出荷は平年を下回る見込みであることから、価格は平年を上回ると見込む。1月以降は、出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。

(7) きゅうり (11～3月)

① 供給見通し

- ・宮崎、群馬、高知等が中心の出荷となる。
- ・作付面積は、宮崎は前年比99%、群馬は98%、高知は99%
- ・生育状況は、定植後における天候不順や日照不足により、軟弱徒長気味の圃場も見られるものの、総体の生育は概ね順調。
- ・供給見通しは、年内、年明けともに平年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- ・サラダ需要が安定していると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- ・加工メーカーや仲卸は、昨今の価格が高水準になったことに伴い損失を出しており、売り込みに消極的になっていることから、今後市場等における引き合いは弱まる可能性。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、11月から3月まで、出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。

(8) トマト (11～3月)

① 供給見通し

- ・栃木、愛知、熊本等が中心の出荷となる。
- ・作付面積は、栃木は前年比98%、愛知は100%、熊本は100%。
- ・生育状況は、定植自体は平年に比べて遅れた地域はあるものの、その後の生育は根張り、着果ともに概ね順調となっている。
- ・供給見通しは、年内、年明けともに平年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- ・大玉トマトの需要は減少しているものの、ミニトマトの需要が堅調であることや、ホットメニューでの消費も考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、11月から3月まで、出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。

(9) ねぎ (11～3月)

① 供給見通し

- ・関東産地(千葉、群馬、茨城、埼玉)等が中心の出荷となる。
- ・作付面積は、千葉は100%、群馬は102%、茨城は100%
- ・生育状況は、10月の台風前から長雨が続き、防除や土寄せが行えない等、作業の遅れが見られた。台風の影響で、関東産地を中心に圃場の冠水や強風による葉折れ・倒伏・曲がり等が散見される。
- ・供給見通しは、台風の影響で、年内は平年を下回る見込み。年明け以降は平年並みを見込む

が、寄せ直し作業の遅れ等から平年を下回る可能性がある。

② 需要・価格見通し

- ・鍋物需要も増加すると見込まれ、また、薬味用のカットねぎが年々伸長していることや、各産地の特徴ある品種が増えて売場面積が増えていることも踏まえ、需要の増加を見込む。
- ・鍋等の需要が増加すると見込まれる中で、11月及び12月は、出荷は平年を下回る見込みであることから、価格は平年を上回ると見込む。1月以降は、出荷は平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。

(10) その他、秋冬野菜全体の主な消費の動向等に関する本委員会消費分科会での意見

① 9月下旬以降、キャベツ、レタス、にんじん等を始めとして、主要野菜の価格が平年を大幅に下回って推移していますが、消費への影響はでていますか。

- 価格は買いやすい価格で推移しており、消費量は平年より増加している。
- 過去経験無い相場安だが、消費者は値頃感こそ感じているが、安いとは思っていない。感覚的に「いつでも買える」売価になったことで、特売等量販店の仕掛けは訴求力薄れ苦戦。
- 消費者は、野菜の価格が安くなければ買わない姿勢を強めている中で、昨年は台風、長雨の影響で価格が高騰したことに比べて、本年は買いやすい価格で推移した。
- 10月上・中旬の価格下落により消費は増加。
今後は、秋雨前線及び台風の来襲により昨年程の高騰は無いにしても、一部の施設園芸野菜に影響はでる。
- 9月の野菜の販売は大きく苦戦している。
- 9月下旬からの長雨、台風による多雨により果菜類、レタス類、葉物に大きな影響が発生している現状から、九州産地へ移行してからの安定に期待する現状です。
- 消費全体の動きは良くないと思います。

② 今秋の気温は平年を下回る日が多いですが、鍋商材等の消費への影響はでていますか。

- 気温の低下した10月中旬以降から消費量は増加。
- 過去2年暖冬傾向だったこともあり、今年の鍋商材はいまのところ好調に推移。11月以降本格化するタイミングは期待が持てる。
- 価格が買いやすいこともあったため、売れ行きは昨年比べて伸びた。
10月の長雨、台風の影響で高値となった場合には、消費者の買い控えが懸念。
- ここの所の長雨の影響で長葱の被害が心配される。低温とともに需要は増加するが価格は高騰。
- 鍋需要は11月以降に高まる気配。
- 需要期への入りが早くなり、10月下旬からの需要増からも白菜、葱類中心に堅調な動きを期待しております。

③ 昨年、一昨年は、台風の襲来か秋雨前線の停滞により、主要野菜の価格が高騰しました。一方、本年は豊作基調により主要野菜の価格が低迷する中で、主要野菜の調達に関して今後どのような対応をお考えですか。

- 契約産地からの仕入比率を高めていく。

- 仕入価格については、ある程度の弾力性を持った契約をする必要がある。
- 基本的な調達方法は変わらず。但し天候不順続く中、予約相対の期間・量は今後見直ししていく計画。
- 台風の襲来及び秋雨前線の停滞により、果菜類、レタス、ほうれんそう等が高騰している。今後も高値が継続すると予測される中、従前どおりの方針を踏まえ、産地と契約を結ぶ産直による品揃えの充実を考えている。
- 今後も豊作基調は変わらないが、9月、10月上旬の様な価格下落にはならない。
- 台風で被害にあった産地や、農産物の救済策を検討。可能な限り傷ついたものなどもお届けできるよう組合員に情報提供している。
- 長雨・曇天・台風と続けての気象変動から長期化する被害が、果菜類、葱類、葉物に発生している現状から、特に11月対策が必要と考えます。

④ 高齢化の進展、単身世帯や共働き世帯の増加等を背景として、今後どのような商材や新商品の開発、製造技術の革新等が必要とお考えですか。

- 栄養価の高い品種
- 加工しやすい品種
- 素材→カットサラダ等簡便→惣菜と、最終的には惣菜比率増に向かうのでは。
- 和食系の簡便ニーズを踏まえた取組を行う。
- カット野菜、小分け（少量パック）を考えている。
- 少人数家庭の影響で、土物、大型野菜を1/2にカットしたものの伸びが今後も続く。
- 新料理セット工場が9月に稼働。10月から販売開始、注文が多いため製造が追いつかない状況。
- お惣菜需要の伸びが先日のコンビニ業界数値に出ていましたが、今後の世帯構成からも少量、多品目での食事をイメージした時に、完成度の高い商品を少量求める流れは拡大していくと判断しています。
- オープンを使用した調理が増加する可能性であること。また、惣菜の需要は増加する可能性があり注目。

⑤ 今後も加工・業務用野菜の需要が拡大すると見込まれますが、今後5年後を見据えて、消費が増加する品目、逆に減少が見込まれる品目を教えて下さい。

- 大きな切り口として「手間のかかる商材」はより簡便に、「手間のかからない商材」は手作りにと区分けがはっきりしていくのではないかと見込める。
- 手間のかかる商材＝煮物・炒め物→ごぼう・里芋等灰汁の出る土物根菜類
- 手間のかからない商材＝サラダ・レンチン→レタス・ミニトマト・Bリーフ等
- 需要が増えるものは、サラダ商材。特に味や糖度にこだわったトマト、ミディトマトなどや、ブロッコリー、スナックエンドウなどの豆類。
- 減少が見込まれるものは、根菜類、さつまいも、さといも、ゴボウなどは苦戦する。若年層が料理方法をあまり知らなくなっている。
- 現在の需要がある品目は、5年後も大きく変わることはないが、需要がある品目について安定的に供給できるようにすることが必要。具体的には、高齢化が進む産地の現状を踏まえて、キャベツ、だいこん、はくさいの収穫機械の導入は必要。

⑥ 今秋冬の注目すべき野菜はどのようなものがありますか。前記「1. 野菜の今後（11～3月）の需要見通し」に係る品目以外の野菜でお願いします。

- 特になし

- クリスマスを最大ピークとしたマッシュルーム・ベビーリーフ
- サラダ提案でケール、ロメインレタス。
- 植物工場で生産したレタス、ミニトマトなど。
- 九州の絹さや、スナップエンドウ、いんげんなどの豆類。
- ブロッコリー。
- 洗浄済みのベビーリーフ。(現在は洗浄後の脱水が技術的に難しく導入に至ってない。)